



THE SERVICE CLUB OF YMCA  
THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

2026年4月

# 札幌クラブ

c/o YMCA  
MINAMI 11 NISHI 11  
CUO-KU SAPPORO  
〒064-0811  
011(561)5217

## Week4Waste/RBM

CHATERED IN

一主 題 NOVEMBER 21, 1955

国際会長

Faith, Love, Action

Edward Ong (シンガポール)

アジア会長

Act now with faith and love!

田上 正 (熊本むさし)

東日本区理事

『ワイズのらしさ再発見』

山下 真 (十勝)

Rediscovering Y's Uniqueness

北海道部部长

「Well Being なワイズライフを」

柴田 伸俊 (札幌)

札幌クラブ会長

「充実した人生を送るためのワイズ活動」

小野 健 (札幌)

札幌クラブ役員

会 長 小野 健  
副会長 山崎 修  
書 記 本宮 大輔  
会 計 秋葉 聡志  
直前会長 小野 健

大切なのは、正しい答えを出すことではない。正しい問いを  
持ち続けることだ。

アミール・アクセル(数学者・科学著述家)(山崎 修 選)

## 巻頭言 AI との共存

宮崎 善昭

私が、北海道 YMCA に入職したころキャン  
プのリーダーは、カウンセラーと呼ばれてい  
て、経験のない大学や短大の1, 2年生が主  
に担当していた。ところが神戸 YMCA のある  
キャンプ場では全く役割が逆で、経験豊富な  
大学3, 4年生がカウンセラーをしていた。  
今でこそカウンセラーなどという言葉は多少  
氾濫気味で様々な場所や役割で使われるよう  
になったが、当時の YMCA では、青少年キャ  
ンプでグループワークの手法による全人教育  
で効果的な方法だったのである。

さて、前置きが長くなったが、近年 AI が  
カウンセリングの分野にも進出して来ている。  
特に、ChatGPT などのトランスフォーマ  
が出てきて誰でもいつでも気軽にいろいろな  
相談や調べ物ができるようになって利用者が  
爆発的に増加している。日本では、まだ少な

いようだが、人間のカウンセリングをうける  
よりも AI の方が適確な答えが求められると  
してその内容を無批判に受け入れてしまう層  
がある一定の割合でいるようである。その結  
果、社会の価値観や習慣、倫理・道徳観から  
著しく逸脱し、あるいは偏ってしまった反社  
会的、あるいは自己否定的な行動を最適解と  
して勧めてしまい事件になったケースもあっ  
たようだ。

私も、調べものなどがあるときはとっ  
りばやくて便利なので AI を利用するが、全  
く良くできていて知識量、記憶量はとてもか  
なわない。だが、何かを相談するとなると躊  
躇してしまう。何故か？相談内容全体を見渡  
して、いくつもある選択肢から最も相談者本  
人にとって都合のいい内容を耳あたりの良い  
言葉にまとめ上げ、順に並べているような頼

りない思いがするのだ。正に主体としての人格も思いもなく淡々と質問者の質問に合わせて言葉を紡いでいるのではなく、繋げているだけに思えるのである。

人間に相談すると、感情が入って怒ったり、時々間違ったりするが、そこにはその人のいる意味が感じられ私のことを思っているという共に生きている実感と安心感があるのだ。

AIは、相談者や話し合いの相手として初期段階ではかなり優秀で間違いの少ない話しやすい対応が期待できそうだが、最後は痲痺を起しても、頓珍漢でもやはり主体として責任のある不完全な存在の人間の方がいいのは昭和の古き良き人間観に凝り固まっている証なのか。



### 何故この歌を！ 小谷 和雄

「春」で検索しました。誰でも知っている童謡や文部省唱歌がありますが、幼さ過ぎるのし、滝廉太郎の「花」は作詞者が2月例会でしたら、松任谷由美の「春よ、来い」にしました。



## 札幌ワイズメンズクラブ 2026年4月例会

日時：2026年4月21日（火）18:30～20:30  
会場：札幌YMCA 101教室+リモート  
会費：1,500円

- |                 |                          |          |
|-----------------|--------------------------|----------|
|                 | 司会                       | 山崎 修     |
| ① 開会点鐘          | 会長                       | 小野 健     |
| ② ワイズソング、ワイズの信条 | 全 員                      |          |
| ③ 今月の言葉・なぜこの言葉を | 山崎 修                     |          |
| ④ 開会あいさつ        | 会長                       | 小野 健     |
| ⑤ 誕生日           | なし                       |          |
| ⑥ 結婚記念日         | 4月9日                     | 伏木 康、恵美子 |
|                 | 4月15日                    | 小野 健、エリナ |
|                 | 4月29日                    | 柴田 伸俊、邦子 |
| ⑦ 卓話            | 中安 恭平 氏                  |          |
|                 | (NPO くるりん labo 代表/理学療法士) |          |
|                 | 「くるりん labo の活動」          |          |
| ⑧ 諸報告           |                          |          |
| ⑨ YMCA報告        | 担当主事                     | 北川 佳治    |
| ⑩ 今月の歌          |                          |          |
|                 | 「春よ、来い」 松任谷由美            |          |
|                 | (小谷 和雄 選)                |          |
| ⑪ 閉会点鐘          | 会長                       | 小野 健     |

2026年3月例会  
出席報告

在籍会員 11名  
ゲスト 0名

出席者 6名  
ビジター 5名

メネット 2名  
出席者合計 12名

メイクアップ 0名  
出席率 55%

## 札幌ワイズメンズクラブ 2026年3月例会

日時：2026年3月17日（火）18:30～20:30

場所：札幌YMCA101教室+リモート

出席者：秋葉、小谷、小野、柴田、伏木、宮崎、  
本宮、安田、(ゲスト)田口、山崎

出席者計 10名

卓話：田口圭三氏 (region 株式会社 代表取締役)

表題：「保険薬局～過去から未来～」

内容：

保険薬局の成り立ちと現在地 1997年以降の医薬分業の本格化により、日本の薬局業界は大きな変革を遂げました。本来のミッションは、医師と薬剤師が役割を分担し「薬物治療の適正化」を行うことでしたが、現実には効率性を重視した「門前薬局」の乱立を招きました。特定の医療機関からの処方箋集中率が高いほど経営効率が良いという立地依存のモデルは、利用者から見れば利便性の低下に映ることもありました。しかし今、厚生労働省はこの経営スタイルにメスを入れ、立地から「地域への医療貢献」へと舵を切るよう求めています。

2040年を見据えた未来予測 2040年の人口動態を予測すると、私たちの進むべき道は明確です。若年層はオンライン診療やドラッグストアの利便性を享受する一方、高齢層においては在宅医療のニーズが急増し、より高度な専門性が求められるようになります。今後の薬局は、単に「薬をもらう場所」ではなく、それ自体が

「目的」となる存在へ変わらなければなりません。利便性を追求するのか、あるいは高度な専門性を追求するのか。その転換点は、オンライン診療の普及や保険適用の範囲変更といった形で、予想よりも早く訪れるかもしれません。



卓話者の田口氏



集合写真

(前列左から安田、田口、小野、山崎、宮崎  
後列左から小谷、柴田、伏木、本宮、秋葉)

region 株式会社の歩みと独自の取り組み 弊社は2018年、個人事業主として「リジョン薬局」を立ち上げました。業界の常識では最悪と言われる立地からのスタートでしたが、私は「地域 (region) に根ざした改革 (innovation)」を理念に掲げ、まだレッドオーシャンではなかった「個人在宅」に特化する道を選びました。営業担当を置かず、薬剤師一人ひとりが現場で柔軟に意思決定を行う「OODA ループ」を実践することで、他職種との強固な信頼関係を築いてきました。例えば、訪問看護師が服薬管理に費やしていた時間をケアに充てられるよう、事前の薬剤調製や無菌製剤処理を徹底しています。結果として、現在は2店舗で34名のスタッフを擁し、約1200名の在宅患者様をサポートする体制へと成長しました。

未来を創る「四方よし」の経営 現在、私は「北海道経営未来塾」で学びを深めています。超一流の経営者の方々の熱量に触れ、「自分と未来は変えられる」という言葉を胸に刻んでいます。弊社の目指す姿は、利益を上げながら患者様や地域に貢献し、職員もやりがいを持って働ける「四方よし (売り手・買い手・世間・働き手)」の実現です。薬剤師が「薬を動かす」のではなく、自らが「動く」ことで、安全という社会インフラを維持し、医薬分業の真の目的を追求し続けてまいります。

## 次期会長・部役員研修会参加報告

小野 健

2026年3月14日（土）～15日（日）にYMCA東山荘にて、ワイズメンズクラブ東日本区の次期会長・部役員研修会が開催され、札幌クラブから小野が参加しました。研修会には今回で3回目の参加となりました。その前日13日の夜にマダガスカル出張から帰国して、成田空港から町田のホテルに到着したときにはすでに夜中で、時差ボケでほとんど寝られない状態で翌朝に御殿場へ移動と、東山荘に着いたときはかなりヘロヘロでした... 去年からなのですが海外業務の出張が立て込んでいて、出張から帰国直後にワイズ関連のイベントに参加、というのが今年は続きます。

研修会には東日本区各部・クラブの次期役員・会長さんが一堂に集い、山下理事や事業主任の皆さんからの次期方針などをお聞きしました。その後、今回研修会のメインイベントである、富士宮クラブの佐野ワイズのコメットさんである佐野理子さんから、2月19日～3月2日に行われた「インド体験・交流プログラム」への参加経験をお話いただきました。これは、次期国際・交流事業主任の川越クラブの山本剛史郎が中心となって1年以上かけて準備を進めていただいたプログラムで、インドの中でもハイテク都市として有名はハイデラバードを舞台に、現地のワイズメンズクラブの皆さんの協力で実現したプログラムです。高校生の佐野さん以外に大学生のユース計6名が参加して、インドの文化に触れ現地の人たちと交流するという山本ワイズの熱い想いのこもった素晴らしいプログラムでした。佐野さんの高校生とは思えないプレゼンテーションも素晴らしく、おじさんおばさんのワイズからの質問にも臆することなく堂々と応えていました。札幌クラブの例会卓話には是非ともインドでの経験などをお話ししてもらえれば良いなーと考えています。佐野さん

は国際協力の仕事に関心があり、海外協力隊にも参加してみたいということで、国際協力に関わらせていただいている先輩として何かサポートができるのではと思っています。

今回の研修会は、多くの参加者の方がクラブ会長を何回か歴任、あるいは2期連続で会長という方が多く（さすがに4期連続はいませんでしたが）、部役員や会長の仕事についてのクラシカルな研修ではなく、それぞれのクラブの抱えている問題や悩みを共有し、これからどのようにしてワイズメンズクラブ・各部を盛り上げていけばよいかを話し合うグループワーク中心の構成でした。我々の札幌クラブのそうですが、どこのクラブも高齢化やメンバーの減少などに悩んでおり、それでもその中でどのようにして楽しく充実したクラブ活動を進めていくか、色々な創意工夫の経験も聞けて有意義な時間となりました。今回研修会で得た知見は札幌クラブの皆さんにも還元していきます。

3回目の研修会参加でだいぶ慣れてきたこともあり、他のクラブの皆さんとグループワークや懇親会で色々なお話をすることができました。宿泊部屋は江東クラブの鈴木さんとの相部屋で、鈴木さんが長年取り組んでいるなまはげのお話をお聞きすることができるなど、改めてワイズメンの皆さんは多士多彩だなーと感じ入るとともに、ワイズメンズクラブを通じた仲間との交流をもっと大事にしていきたいと考える次第です。



山下理事の挨拶

## 第23回ワイズベル杯報水泳発表会報告

柴田 伸俊



佐野理子さんのインドプログラムのプレゼンテーション



季節外れの雪だった昨年とは打って変わり  
富士山がきれいに見える素晴らしい天気でした。

### 何故この言葉を 山崎 修

いまアメリカとイスラエルによるイラン攻撃が1ヵ月以上続いています。出口戦略が見えないまま泥沼化しています。「圧倒的勝利」と語りながら攻撃を続けざるを得ない矛盾。結果を急ぐあまり、なぜこの戦争を始めるのか、どう終わらせるのかという「問い」を十分に持たなかった帰結ではないでしょうか。

一方、教育の世界ではAIが急速に浸透し、答えは一瞬で手に入る時代になりました。しかしAIが答えを出してくれるからこそ、「なぜそう考えるのか」「本当にそれでよいのか」と自分自身で問い続けるプロセスこそが、人間にしかできない営みとして、ますます重要になっています。

戦争も教育も、そして私たちの日々の暮らしも、結果だけを追い求めるのではなく、そこに至るプロセスの中で正しい問いを持ち続けることが、道を誤らないための羅針盤になるのだと思います。

3月1日(日)YMCAプールにて第23回ワイズベル杯水泳発表会が開催されました。水泳をはじめたばかりの子供やスタッフと競り合うような泳ぎを見せる選手も参加し、とても盛り上がった発表会となりました。始めて間もないと思われる子供が懸命に泳ぐ姿は、孫を見ているようで思わず拍手を送ってしまいました。

今年は久々に全国大会に参加する中学生が1名いるとの事。期待されます。小野会長に代わり柴田ワイズが講評とワイズベル杯贈呈を行いました。

受付では例年通りワイズコーヒーコーナーを設け、柴田ワイズと柴田メネットでコーヒーサービスを行いました。発表会は例年並みの参加者でしたが、多くのお母さんやお父さんが立ち寄ってくれました。最終35~36杯のサービスが出来ました。



集合写真



発表会の様子



柴田メンからトロフィー授与

### <キッズダンスクラス発表会>

3月15日(日)に、札幌YMCAキッズダンスクラスに所属するメンバーのための発表会が、北海道青少年会館 Compass (札幌市南区)にて開催されました。今回も昨年に続き、Move The Hearts との合同開催としたことで、大きなステージがある会場で開催できたり、200名近い観客の前で発表できたりと、盛大な発表会にすることができました。

子ども・ゲストを含め総勢71名の出演者が意気揚々とステージを明るく元気に、そして熱気たっぷりにしてくれました。次年度も、多くの仲間と共に素晴らしい発表会にできるよう、スタッフ一同、日々の運営に取り組んでいきたいと思っております。



かけっこ教室の様子



### <かけっこ教室開催>

3月21日(土)に、札幌西ロータリークラブ青少年支援事業の一環で、北海道札幌西高等学校の陸上競技部顧問先生および生徒さんに特別講師としてご協力をいただき「春のかけっこ教室」を札幌YMCA体育館にて開催し、幼児から小学生高学年まで50名の子どもたちが集いました

音楽のリズム(ピッチ)に合わせて身体を動かすことで、無意識のうちに理想的な走動作につながっていくなど、楽しみながら走り方を覚えることが出来ました。また、参加者の皆さんにとっては、陸上競技部の生徒さんの軽やかな身のこなしを間近で感じることができ、貴重な機会になったのではないのでしょうか。

雪がとけて、グラウンドや公園で思い切り走り回れる日も、すぐ目の前まで来ていますね。ぜひ、今回学んだことをご家族で実践していただければ幸いです。

## 札幌クラブ 2026年3月事務会報告

秋葉 聡志

日時： 2026年3月17日(火) 19:00~19:45  
場所： オンライン  
参加者： 秋葉、北川、宮崎、本宮、山崎、小谷

### 1. 4月号ブリテンについて

原稿執筆担当者、ブリテン編集担当(仮)などを資料に基づき協議、決定

### 2. 4月例会について

日時：2026年4月18日(火) 18:30~20:30  
場所：札幌YMCA 101教室(ハイブリッド)  
卓話：未定

### 3. 2026年4月以降の例会卓話について

卓話候補を確認し、アサイン担当を確認した。

以上